

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道岩見沢市 栗沢病院

| 法適用区分  | 業種名・事業名               | 病院区分    | 類似区分         | 管理者の情報     |
|--------|-----------------------|---------|--------------|------------|
| 当然財務   | 病院事業                  | 一般病院    | 50床以上～100床未満 | 非設置        |
| 経営形態   | 診療科数                  | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1    | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営     | 2                     | -       | 訓            | 救          |
| 人口(人)  | 建物面積(m <sup>2</sup> ) | 不採算地区病院 | 看護配置         |            |
| 83,942 | 4,174                 | 第2種該当   | 25:1         |            |

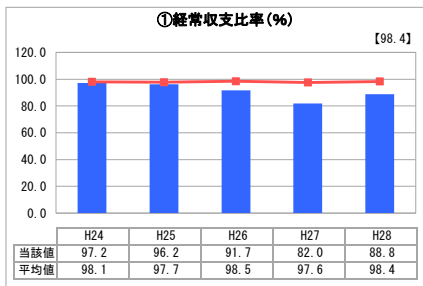
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

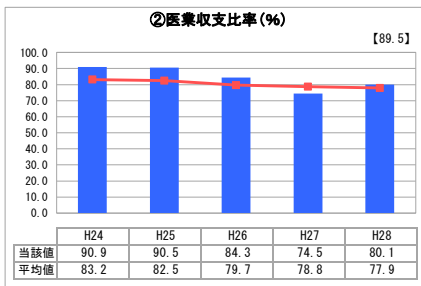
| 許可病床(一般) | 許可病床(療養)  | 許可病床(結核)    |
|----------|-----------|-------------|
| -        | 85        | -           |
| 許可病床(精神) | 許可病床(感染症) | 許可病床(合計)    |
| -        | -         | 85          |
| 稼働病床(一般) | 稼働病床(療養)  | 稼働病床(一般+療養) |
| -        | 85        | 85          |

グラフ凡例  
 ■ 当該病院値(当該値)  
 - 類似病院平均値(平均値)  
 【】 平成28年度全国平均

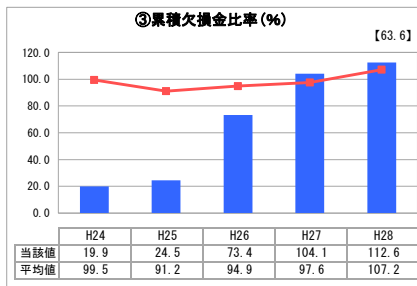
## 1. 経営の健全性・効率性



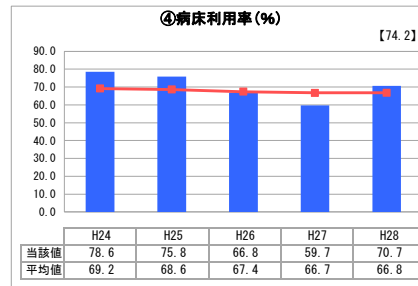
「経常損益」



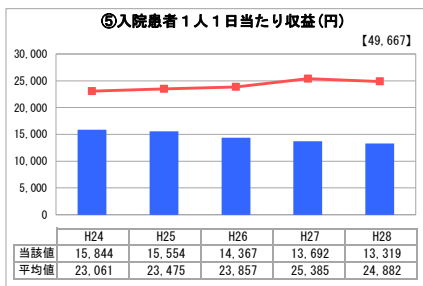
「医業損益」



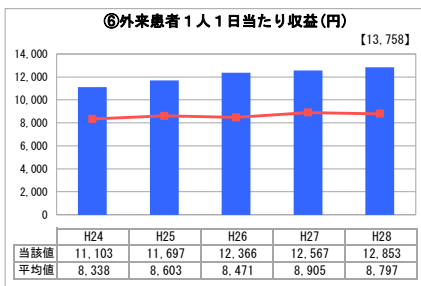
「累積欠損」



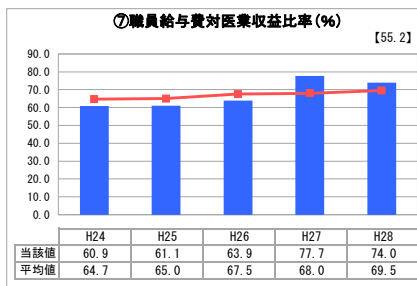
「施設の効率性」



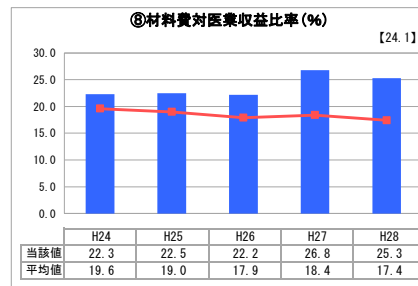
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

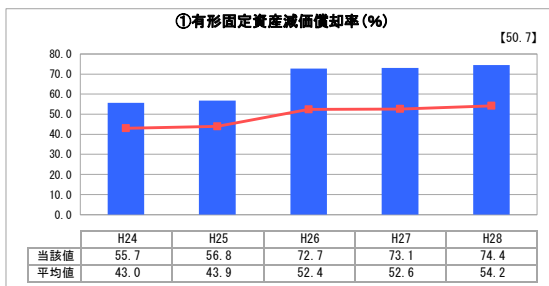


「費用の効率性①」

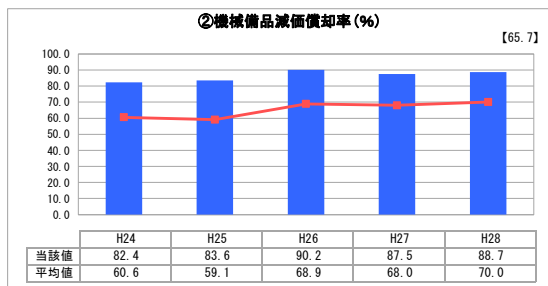


「費用の効率性②」

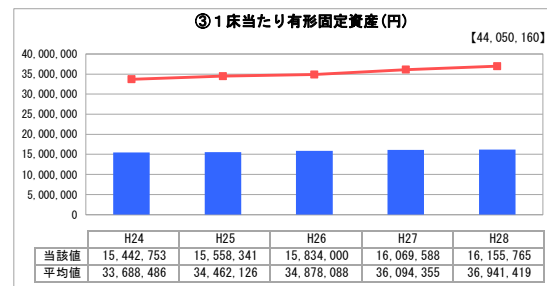
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

市町村合併後、栗沢地域唯一の病院として、内科と外科の外来診療を行い、地域住民が安心して暮らせる医療の提供を行っているほか、85床の医療療養型病床を有し、急性期医療の治療を終えた方など、慢性期の治療が必要な多くの患者を受け入れ、公立病院としての役割を果たしている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

類似病院と同じく100%を少し割る程度であった経常収支比率が、病床利用率が2年連続で70%を割っていたため、年々下がっていたが、昨年度は利用率が70%を超えたことにより持ち直している。

医業収支比率は類似病院とほぼ同じであるが、赤字が続いているため累積欠損が増え続けている。

入院患者1人1日当たり収益は、類似病院をかなり下回っているが、外来患者1人1日当たり収益は、大幅に上回っている。

職員給与費対医業収益比率、材料費対医業収益比率は、医業収益の減少により、類似病院を上回っており悪化が続いている。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、機械備品減価償却率ともに類似団体平均に比べて高く、老朽化が進んでいる。さらに、1床当たり有形固定資産も類似団体の半分程度である。これは、合併後、病院の規模の縮小の過程で、大規模な建設投資を行っていないためである。

### 全体総括

経営の健全性を示す経常収支比率が100%未満であり、経営改善に向けた取り組みが必要となっている。

そのため、急性期病院との連携を強化し、70%以上の病床利用率を維持し、さらに、看護体制の見直しや、患者医療監視装置を導入するなど入院報酬単価をあげ、収益増に繋げ経営の効率性を高めることに努めている。

老朽化した施設の整備も含め、今後も適切に役割を果たし良質な医療を提供していくために適正な経営規模の検討を進めている。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。